



卓 話

「時事評論・参議院選」

共同通信前論説委員長

崇城大学教授 井芹 浩文氏

安倍首相は参院選で見事に負けました。こんなに負けるとは本人も想像していなかったでしょう。今回の参院選のキーナンバーは「65」と集英社の2007年版イミダスの「政党」の項に書きましたが、4月の補選で1つ取り戻して「64」となり、自民、公明両党の与党で「64」議席確保が至上命題でした。ところが、結果は自民党37、公明党9で計46議席。与党過半数に必要な「64」を大きく下回る歴史的惨敗でした。



それでも安倍首相は投票日の29日夜、早々と「続投」を宣言しました。「反省すべきは反省していかないといけないが、改革を進めていくためには、これからも総理として責任を果たしていく」と続投の理由を語りました。自民党内は当面、これを受け入

れる空気です。

確かに、「ポスト安倍」の有力候補がないということもあって、続投そのものは自民党内で割とすんなりと認められたのですが、これからが大変です。そもそも安倍さんは人気の高い「選挙の顔」として総理・総裁に選ばれたわけですから、選挙に勝てない安倍さんの利用価値はかなり低くなっています。

安倍首相は8月中にも内閣改造と党役員人事を行って巻き返しを図りたい考えですが、参院では与野党逆転の結果、議長や議運委員長を民主党に明け渡したことで参院の主導権を民主党に奪われてしまいます。法案の取捨選択権が民主党に移る可能性もあります。

政局運営の上でもう一つ大きな問題があります。それは中川秀直幹事長と青木幹雄参院議員会長がともに引責辞任するなど、実力者が舞台から次々に去ってしまい、新たな役者不足という状況の中で今後の政局を動かせるキーマンが不在になることです。その意味で8月末の改造・党人事がスムーズに行くかどうか注視しておく必要があります。